

事業所名

児童発達支援・放課後等ディサービス あすな仲間

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7年

4月

1日

| | | | | | | | | |
|-----------|--|--|----|---------|-----|--|---------|----|
| 法人（事業所）理念 | あすな～明日への仲間・絆 ノーマライゼーションの【明日（未来）】に向け、職員・ご家族・地域・社会全体が【仲間・絆】となり、あすなの療育・支援が子ども達の成長、ご家族の笑顔、未来を支えます。 | | | | | | | |
| 支援方針 | 行動理念 子どもファースト 行動指針 ・過程を認め、たくさん褒めよう ・耳を傾け、共感しよう ・助けを求める素直さをもとう ・良い方法を一緒に考えよう ・常に楽しみ、ありがとうを伝えよう | | | | | | | |
| 営業時間 | 10時 | 00分 | から | 18時 | 00分 | まで | 送迎実施の有無 | あり |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | お子さんに合わせた教材や活動を用意し定期的に通っていただくことで、お子さんの生活リズムを作るお手伝いをします。食具の使い方、衣服の着脱、クレヨン鉛筆の操作、保育園や幼稚園、小学校に必要なことをスモールステップで習得できるように支援します。活動では集中できる環境を整えられるようパーティションを活用してお子さんが活動しやすい工夫を行います。一日の活動の流れをホワイトボードで見えるようにし見通しをつけて行きます。時間の管理などはタイマーを使ったり時計に印をつけてお知らせします。おもちゃの消毒を子ども達と行い感染症対策を行います。学習の習慣化・お金の概念の導入をします。 | | | | | | |
| | 運動・感覚 | 着席して活動するプログラムを行っています。座った姿勢を保持しやすいように、机・椅子を用意しています。ボールや、マット等の活動を通して、体の使い方や力加減等を学ぶSST(ソーシャルスキルトレーニング)を通して学ぶ機会を作ります。感覚統合療育を推進し、体のビジョントレーニングを取り入れて目と手や体を一緒に動かす練習をします。毎月一回『固有覚・触覚・前庭覚』の個別での感覚刺激の検査を行いお子さんの感覚特性に応じた支援を行います。月に2回～3回理学療法士の個別サポートを行っています。 | | | | | | |
| | 認知・行動 | 感覚統合の基礎感覚（前庭覚・固有覚・触覚）は生活にとって重要な役割をになっているため、その力を育てる一つとしてビジョントレーニングのピックを使った眼球運動で認知しやすい脳の状態になるよう支援をしています。小集団活動では、全体指示や個別指示をどの程度理解しているか確認し、ルールを理解して行動できる力を育みます。毎月プログラムを変えることで、さまざまな内容に対応できるよう支援します。 | | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | 「聞く」「話す」と言うコミュニケーションの基盤を作ります。自分の発言が相手に受け止められる、相手の言う事に応じて行動したり発言したりすると相手が肯定的な対応をしてくれるという経験を通じて、コミュニケーションの楽しさを感じられるよう支援します。自分のしたい事を伝える・手伝って欲しい時に援助を求めるなど、生活の中で自分自身を大切にするために必要な行動を身につけられるよう機会を捉えて支援します。音声言語によるコミュニケーションにこだわらず、お子さんの特徴やニーズに応じて絵カードや身振り・文字を使った手段を活用します。言葉を聞いて行動することや、見たものをや経験した事を言葉で表現する事を学ぶ機会を作ります。言葉の理解・表現の課題を通して、日常生活で使える言葉の種類を増やします。子ども未来会議で自信から発言が出来るよう機会作り。職員もお子さんとの会話の中で肯定語を意識しコミュニケーションを図っています。 | | | | | | |
| | 人間関係社会性 | 個別支援や小集団の中で、職員がお子さんの強みをたくさんみつけて肯定的な働きをする事で、他者と過ごす楽しさを経験してもらいます。活動や遊びの中で相手の行動を模擬する事を促します。ルールのある遊びに参加し、役割（子ども未来会議のお当番）やルールに応じた行動を身につけ、集団に参加する準備をします。ゲームで負けた時・失敗した時・思い通りにならなかった時に気持ちを落ち着ける方法をお子さんと一緒に考えます。課題を行う順番や休憩時間に遊ぶおもちゃなど、室内での過ごし方についてお子さんと一緒に計画し、お子さん自身の意思決定につながる支援をします。 | | | | | | |
| 家族支援 | ご家族からの希望により、1ヶ月に1度職員と話す時間を提供しています。お子さんの園や学校での様子、自宅での様子、事業所での様子を共有しています。ご家族やご兄弟・姉妹の困り事があった時にも対応します。夏祭りの開催時や親の集い（年に2回）の際にも、お子さんの情報共有や悩みに対応する環境を整えます。 | | | 移行支援 | | 必要に応じて、園、小学校、中学校、高校でのお子さんの様子を見学したり、先生とお子さんの様子や支援方法について、情報共有したりします。進学予定のお子さんの情報を伝え、連携を図ります。 | | |
| 地域支援・地域連携 | お子さんの通っている他の発達支援事業所などと情報共有するなどして連携を図ります。地域交流イベントとして毎年ハロウィンイベントを行い地域のゴミ清掃や地域の避難場所をお知らせしたり、子ども達が楽しめるようにバルーンアートや大道芸なども行っています。みんなで仮装して盛り上げる活動をしています。 | | | 職員の質の向上 | | 年に3回以上の内部研修を行い、障がいへの理解を求めたり、肯定語を使用した新しい支援方法を学んだりします。毎日のミーティングで支援方法について検討し、お子さんや支援方法に関する情報を共有します。職員の外部研修への参加を推奨します。 | | |
| 主な行事等 | 避難訓練（地震・火災・年に2回以上）、防犯対策訓練、親の集い、夏祭り、ハロウィンイベント、クリスマス会、お楽しみ会、課外活動（おたる水族館・円山動物園・青少年科学館等）、稲穂レク、ランチ・おやつクッキング（カレーライス・ベビーカステラ等）、畑活動、雪遊び、水遊び、実験、工作 | | | 不登校児 | | 学校に通学していないお子さんが安心して過ごせる環境作りを行います。興味のあることや得意なことを伸ばし、自己肯定感が高まるよう支援します。進学や就労への準備やサポートも行います。 | | |